

置きに慎重になるあまり、遅れが出てしまった。体力面におけるものではなく、歩行技術、足置き判断の遅さにおけるもので、前日の体力不足だけでなく歩行技術不足も大いに実感した。特に、下りが顕著で、平蔵谷のガレ場の下りでは特に苦勞した。下る時に重心が後ろにいったために、上手くガレに体重を乗せられず、結果何度も石を落としてしまった。遅いうえに下の人に危険もいき、隊に大きな迷惑をかけてしまった。上級生には何度か叱られた。自分だけでなく、隊に関わることなので、石を落とさない歩き方や重心の置き方をきちんと身に付けなければならない。反省会で荒川さんに言われたことだが、自分は「慎重だが遅い」のである。これを「慎重かつ早く」していかなければならない。

3日目から6日目までの八峰登攀について。アイゼンについていくつか反省点がある。まず、登攀が終わってガレ場から雪渓に出て下り始めるとき、アイゼンが靴から外れてしまう、ということがあった。アイゼンのつけ方がこのとき雑になってしまったため、転ぶ、滑る等で怪我や命に関わる大きな危険がある。アイゼンが外れないよう固くつけるのは当然であり、以後絶対にこのようなことがないようにしなければならない。また、アイゼンのつける早さでは決して早いとは言えず、事前にできることは事前にやり、とにかく慣れる必要がある。また、懸垂下降について反省点がある。Cフェースの懸垂下降ではトラバースするところがあるが、事前に前の人下降するのを見ていたにもかかわらずトラバース位置が分からず、

下降に大分手間取ってしまった。下降位置によっては後々危険になることもあるために、徹底しなければならない。登攀については成長したと思うこともあり、まず、初めの頃と比べて高さに対する恐怖がほとんどなかった。それ故に、足の靴擦れの痛みを除いて、気持ちよく登ることができた。

生活技術について。登攀から帰ってきた後片付けするのが遅く、その結果エッセンに取り掛かるのも遅くなってしまった。登攀が終わって気が緩んでいたことが原因であるが、まだまだ次にやることがあるので、エッセンも非常に大事なことであるので、早く行動できるように心がけたい。

今回の夏合宿では予想に反してフルで行動することになり、精神・体力面でつらいこともあったが、振り返れば非常に大きく、充実した経験になった。今後についての課題も、多く見つかった。それらをクリアできるよう、今後の山行に挑みたい。そして、冬に向けて精進していかなければならない。

村上友理

行動

今回の合宿で個人的には初日の歩荷が山場だと思っていた。扇沢駅で計ったとき水を抜いて50キロ、立つのが精いっぱいだった。実際にはスイカが割れてしまったので行動時は体感で45キロ程度だったが、ガッシャーはどんなに重くなくても丁寧に扱いたい。

ハシゴ谷ではいつもよりガッシャーが高く、木に引っ掛けることが多かった。木に

引っ掛けると体力的にも精神的にも疲労するので気を付けたい。

帰りは雨のためハシゴ谷乗越経由ではなく室堂へ下山した。エスケープではあったが、初めて剣沢や室堂方面に行けてよかった。

登攀

今回の合宿で自分は C フェース剣稜会ルート、C フェース RCC ルート、A フェース中央大ルートをフォローで登らせていただいた。剣稜会ルートは思ったより寝ていて想像していたよりも登攀自体は難しくなかったが、高度感があり、緊張した。RCC ルートは雨のため 2 ピッチ目で懸垂して降りたが雨の中での懸垂待ちはとても寒かった。中央大ルートは C フェースよりも立っていて難しく感じた。3 ピッチめで、トポでは右に行くことになっていたがハイマツに覆われていたので魚津高ルートに合流した。

いずれの登攀でもとにかくシステムを間違えないことに気を付けた。登攀自体は立岩のダイレクトより難しくないと感じた。

バリエーションルート

バリエーションルートでは八ッ峰上半と北方稜線に行かせていただいた。上半ではロープが出る場所も多く、イメージ通りのバリエーションルートという感じだった。ロープが出るような場所でも登山靴で登ったので足置きに気を使った。北方稜線では雪渓を詰める段階でバテてしまった。また、レーションがなくなってしまったのは大きな反省である。上半の

次の日だったので、概念把握しやすかったのはよかった。クレオパトラニードルやチンネは迫力があつた。池ノ谷乗越へ上がるルンゼは足場が悪く特に気を使った。上半では池ノ谷乗越までしか進めなかったもので、その先も歩けたことが自分としてはうれしかった。

生活

今回、テントに自分しか一年がいなかったもので片付けに時間がかかってしまった。上級生に頼めるところは頼んでなるべく早く自分の用意ができるようになりたい。

その他

今回は SAC にも慣れてきたおかげで来年、自分がどう動くのか想像しながら合宿を過ごすことができた。今の会 2 の先輩を手本に改善できる点などは改善して、来年の夏合宿に臨みたい。

藪内鷹

夏合宿での 7 日間で学んだこと、感じたことを記したい。

今回の夏合宿では天候に恵まれていた。そのため、フル行動を成すことができた。非常に嬉しかった。まず、1 日目は黒部ダムからハシゴ谷乗越を越え真砂沢ロッジへ歩荷するものであるが、夏縦走で歩荷を経験したこともあり私が思っているほど身体的に辛いものではなかった。ただ、精神的に辛かったことが大きい。涼しい顔で歩荷ができるようになりたい。1 日目の反省として足置きが未熟であったこと。木の上で滑ってしまいこけてしまった。また、道がとても悪く乗越や障害物が多

く、体力が奪われるのが早かった。そのため、体力ももっとつけなければならない。2日目以降の5日間は登攀・バリエーションに行く。私は八峰Aフェース、Cフェース(2ピッチまで)、Dフェース各1回ずつ行くことができ、バリエーションには源次郎尾根と長次郎谷をつめ左俣から本峰へ行くことができた。登攀・バリエーションともに頭の中ではモヤモヤしており、どういったものかは想像でしかなかった。今回、5日間行ったことによりどういったものかはっきりし、将来のビジョンも少し見えてきた。Aフェースでは登攀の難しさ、恐怖を知った。Cフェースでは雨の中での懸垂下降の難しさ、恐ろしさを知った。Dフェースでは登攀の楽しさ、爽快感を覚えた。また、バリエーションでは源次郎尾根、本峰左俣ともに足置きの難しさ、登山道とは違った険しさ、本当に死と隣り合わせであることを認識した。これほど多くの経験を学べ、この5日間は非常に実りあるものとなった。

最終日ではあいにくの雨となり、その中を室生堂に下山することになった。この日は昨日の夜からあまり眠れず、体調が思わしくなった。加えて、ひざの調子もすこぶる悪く、最初の1ピッチで離れそうになってしまった。そのため、団装を少しばらすことになったが非常に悔しく、迷惑もかけてしまった。夏縦走の時もそのようなことがあり改善をしていかなければならない。また、雪渓をつめているときも強調性がなく、苦しい時こそしっかり声出したりなどしていきたい。

山口耕平

今回は合宿ということで久々に大勢での行動であり、大人数ならではの楽しさを感じることもできたが、同時に自分の集団で行動する上での問題を強く感じた。朝、早く準備して出発しなければならない時、私はとにかく自分が早くすることばかり考えて、周りを見ようとしていなかった。自分のことばかり考えているのではいつまで経っても連れて行ってもらい立場から成長できない。忙しい時こそもっと周囲を見て、自分ができる仕事を見つけるよう努めるべきであった。また、動作の早さに関してもまだまだ遅い部分が多い。パッキングやハーネスの着脱などの基礎的な部分が特に遅いと感じる。これらを改善するには、とにかく経験を積むこと、決まったパターンを作り、それに従い落ち着いて行動すること、片付ける時、適当にやらず次に使いやすいうようにしておくことが重要だと思う。生活面の経験については下界で改善できるものも多くあり、それを疎かにしていたのが反省である。今後は自分の生活技術に自信を持てるよう努力しなくてはならない。歩行については、新人合宿から一貫して自分の課題である下りの遅さを再認識した。反省会で挙がった、迷う時間を少なくするということによって、雑にならず速く歩けるようにしなければならない。迷う時間を少なくするには経験を積むことが必須であると思うが、それ以外にも視線を上げできるだけ先の方を見て、事前にどこに足を置くか考えておくといったことが可能であると思う。自分が今できることを考え、即急に改善していかねば

ならない問題である。また、浮石に対する意識が甘かった。人の命に関わる問題なので、今後は浮石を絶対に落とさないという覚悟を常に持つようにする。次に歩荷に関しての反省点を挙げる。初日の歩荷の時、私は思考が自己中心的になって周りが見えていなかった。他のメンバーも辛い思いをしていることを認識し、辛い時こそ他のメンバーに配慮しなければならない。

登攀については、自分でも動作がぎこちないと感じた。この原因はシステムに対する理解と練習の不足にある。今回、自分は基本的な動作の下界での練習を怠っていた。自分の足りない部分を認識し、認識した問題を後回しにしない意識を持つようにする。また、登攀中のコミュニケーションについて、もっと遠慮せずに行うべきであった。今回は実際の岩場での声の通りにくさを身に染みて感じた。私は声が少し聞き取れなかった時、多分こうだろうとコールを勝手に解釈したことがあった。今考えると大変危険な、事故の原因となる行為であった。今後は少しでも聞き取れない部分があれば、絶対に聞き返すようにする。また、ザイルアップのコールを何度も言うのを遠慮してしまった。このことも事故に直結する、慢心した行為であった。そのような不要な遠慮は今後捨てる。

今回の合宿では、バリエーションルートや登攀で山に登る楽しみを知ることが出来た。山岳地域でのクライミングは初めてのことで、その峰の巨大さや景色の雄大さに感動した。登山道から登るだけではない、山のより多面的な楽しみを知

ることが出来た。しかし、このような登山には相応に危険があるので、そのリスクを可能な限り減らして山に臨んで行きたい。

《個人山行》

◎4月

北アルプス 白馬岳主稜

日程：2015年4月18日~19日

メンバー：L 塩谷晃司 内田祥平 加藤穂高 (会3)

行程：二股~猿倉~白馬尻~(白馬岳主稜)~白馬岳~(大雪溪)~白馬尻~猿倉~二股

行動記録：

4月18日(1日目)

4:00 松本=5:30-6:00 二股~7:10 猿倉~8:25 白馬尻~9:40 VIII峰~10:30 VII峰~11:00 VI峰~11:55 V峰~13:15 IV峰~14:20 III峰(T.S.)

昨年、取り付けもしなかった白馬主稜。あの時はただ、主稜を見上げて吠えることしかできなかった。あれから一年お預けをくらって、やっとトライすることができた。

二股~猿倉は長いように見えて精々1ピッチ。除雪はほぼ終わっていた。猿倉から林道をショートカットしながら白馬尻を目指す。どピーカンで、汗が止まらない。白馬尻でガチャとアイゼンを装着し、いよいよ主稜に取り付く。VIII峰の斜面を一気に飛ばし、登りきると雪稜が始まる。ここまでが一番しんどいところ。VIII峰~V峰までは、ブッシュ混じりの雪稜。一部雪が切れている所では、木をつかんで乗越したり、脆い岩場を登る。VI峰では主稜の全貌が見渡せ、一息入れるにはちょうどよい。IV峰の傾斜の強い登りで、ロープを出

した。雪は安定していたので、不要だったかなとも思う。IV峰~III峰間は、要所で中間支点をとりながらコンテで行動し、III峰の登りでは、加藤のリードで1pスタカットする。時間的にはワンデイの可能性もあったが、II・IIIのコルをT.S.とする。

4月19日(2日目)

4:30 起床~6:00 T.S. 発~6:45 白馬岳
~7:10 白馬山荘~8:25 白馬尻~9:10 猿倉
~10:15 二股

30分寝坊したので、すっかり日が昇ってからスタート。2パーティに抜かれてしまった。II峰は直登のトレースが付いていたが、白馬沢側から巻いた。登りきるといよいよ頂上雪壁。雪が安定していたので下段ではロープを出さず、中間部でバケツを切ってアンカーを作り、ここからロープを出す。スノーバー2本で中間支点を取って、雪庇を越えると山頂に飛び出す。強風の洗礼を受けるがそれも心地よく、うねる雪稜を見下ろすと、達成感が込み上げてきた。実に自然でいいルートだ。人が多く、トレースがしっかり付いていることは玉に瑕だが、それは仕方がない。計画では、小蓮華尾根を下降する予定であったが、天候が下り坂であるということと、強風のため大雪渓を下降することにした。葱平下部の急斜面を慎重に下って、傾斜が落ちた辺りでアイゼンを外す。そこからはシリセードで白馬尻まで。大雪渓の状態としては比較的安定しており、デブリが出ているのも三号雪渓出合付近のみであった。白馬尻から猿倉に下る間に雲行きが怪しくなり、猿倉に着くころにはとうとう雨が降り出した。林道をショートカットしながら急いで下り、本降

りになる前に二股に帰還。学生にとって4月・5月は忙しくなかなか山に行けないが、残雪期の山は魅力的である。山に行く努力を怠らず、期間限定の山を味わってみたい。

五竜東面G II中央稜

2015/04/16-17

メンバー：蒲澤 翔 (会3)

松田 浩和 (OB)

コースタイム

4/16

9:45 登り始め

11:00 小遠見尾根

13:30 西遠見

15:45 イグルー完成

4/17

3:00 起床

4:20 出発

5:30 G II中央稜取り付き

10:00 G IIの頭

10:30 山頂手前のコル

13:00 西遠見

15:30 テレキャビン

概要・反省

風のためテレキャビンの出発が遅れ、予定よりおそく登り始めた。雪は締まって歩き易く 13:30 頃予定の点場の西遠見に着いた。一息してテントを張ろうとしたところで問題が発生した。テントポールが1本しかなかったのだ。仕方なく雪を掘り、イグルーを作ることにした。1時間半ほどでイグルーが完成し、その日はイグルーで寝た。イグルー内はかなり快適でよく眠ることができた。

2日目はG II中央稜に取り付いた。取り付

きまでは雪が悪くなり始めていて、デブリのようなものも見られた。松田と交代でリードしながらルンゼを登った。尾根上に上がってからは傾斜も緩くなってきたので、コンテで登り、稜線手前まで来た。GIIの頭に上がる手前のトラバースではスノーバーで支点を取りながらリードした。稜上はガスで山頂までは確認することはできなかった。帰りのテレキャビンの時間を考えて11時半には引き返そうと話合い、頂上へ向けて歩き出したが、ここでも問題が起きた。二人の時計が1時間ずれていた。最悪の場合を考えて、早いほうの時計を信じて、山頂手前のコルを引き返した。白岳を巻いて、遠見尾根をとおって西遠見まで戻り、荷物をまとめてテレキャビンへ下山した。結局テレキャビンで時間を確認すると、まだ1時間の余裕があった。時計さえ狂わなければ山頂に立てたと思うと悔しかった。

頸城山群 雨飾山・南尾根

日程：2015年4月6日

メンバー：L塩谷晃司 加藤穂高（会3）

行程：小谷温泉～雨飾高原キャンプ場～奥ワセ沢出合～P2～P1～雨飾山（ピストン）

行動記録：

4月6日

4:10 長野＝6:10-6:30 小谷温泉～6:50 雨飾荘～7:40 雨飾高原キャンプ場～8:00 奥ワセ沢出合～9:00 南尾根コンタクト～9:30P2～10:30P1 取付～12:00P1 トップアウト～12:30 雨飾山～14:00P2～14:30 奥ワセ沢出合～16:00 小谷温泉＝18:00 長野

長野を早朝に発つ。白馬辺りから濃い

霧に覆われ、雨が降り出す。それでも我々は、お互いに気が付かないふりをして小谷温泉まで車を走らせた。温泉に着くころには、雨はあがっていた。危うく出かかった二字を飲み込んで、歩き出す。

雨飾荘の先で林道を外れ、ショートカットする。まだ雪は締まりきっていない。キャンプ場付近でガスが切れだし、P2の大斜面が顔を出す。南尾根の取り付き方は、ワセ沢からP3経由、荒菅沢右岸尾根からP2など数パターンあるが、後者で行こうということになった。大海川の河床に降り立ち、夏道のついている奥ワセ沢左岸尾根を登る。尾根がコンタクトした辺りでP2を見上げると、荒菅沢左岸尾根は岩が露出しており、合理的でないように思われた。そこで作戦を変更し、そのまま直上してプラト一下で南尾根に合流することにした。南尾根に乗り、幅の広い尾根を登ると次第に樹木がなくなり、オープンな大斜面となる。今回のコンディションでは雪崩の危険性は低いだらう。P2の少し先で、ガチャを装着する。この時期にしては雪が少なく、例年なら雪稜となっているところも藪漕ぎとなった。

P1は実質1pのクライミング。Ⅲ級程度だが岩はかなり脆い。今回は加藤にリードを任せた。アイゼンでアルパインのリードをするのは初めてだったが安定していた。P1にはfixロープが二本あるが、どちらとも上部で切れかかっているので、使用してはならない。ハーケン4枚のビレイ点があり、そこでロープを解いてもよいが、岩が不安定なのもう1p延ばす。直上すると、Ⅳ-のピッチであるが、雨も強まってきたので今回は割愛。P1からは

藪と岩の稜線をつなぎ、山頂へ至る。下降はP1手前の草付斜面を、木を支点にして懸垂下降した。ここを下った方が、落石のリスクは低いだろう。P2までの痩せ尾根を慎重に下り、P2からは各自シリセードを楽しみながら下る。あっという間に大海川へ。ここからは、林道をショートカットしながらひたすら歩く。小谷温泉に帰還すると、ちょうど本降りになりだした。このルートは、上部が雪稜になっている時期が面白いだろう。例年であれば、3月中旬~4月上旬あたりが適期か。厳冬期も登られてはいるが、P2の斜面の雪崩には注意すべきである。

◎5月

GW 五竜南下

メンバー：小林, 北見(会 4), 内田(会 3), 長谷川, 渡部(会 2)

1日目 北上隊と同じ

2日目 【晴れ】

4:30 五竜山荘 発

5:30 五竜岳

8:35 北尾根頭

10:20 キレット小屋

14:00 鹿島槍南峰

15:40 冷池山荘手前 T.S.

五竜の登りは少し雪がありアイゼンをつけたがそれ以降はほぼ夏道が出ていた。唯一、キレットにはやらしく残っていて気を引き締められたが、その後もただの縦走路。キレットに限らず稜線上は積雪状態により相当悪いように思われた。今回でも冷池に着いたのが16時手前なので余裕を持った行動計画が必要である。

3日目【曇り】

4:30 発

5:40 爺ヶ岳

6:40 白沢天狗尾根と東尾根のJP

10:05 1994の鞍部

13:00 白沢天狗山

16:30 ビバーク

爺ヶ岳までは残雪があるものの単調。目指すべき白沢天狗尾根ははっきりと見えていた。1日で下れるなーなんて思っていたがそうはいかなかった。始めは2年に先頭を任せていたが意見を言い合わず、迷いながらも先に行ってしまう。戻ることも必要だと教えた。その後、ガスが出てきて皆でルーファイして進むが深い藪漕ぎで思ったように進まない。2年生は藪漕ぎ自体初めてだと言い、体力を消耗していた。藪漕ぎ後の一本で水の入ったポリタンを1つ無くしていたことに気付いた。おそらく団装分け中に紛失したのだろう。節水しながら進むが道間違いを2度してしまった。正規ルートで懸垂も1度出た(白沢天狗山のコル:1970m付近)。白沢天狗山を越えた後、2年生に疲れが見え始め、小滑落も目立つようになった。そこでさらに尾根を間違えていることに気づき(1850m付近)、この日は正規の道に100mほど登り返しビバークすることを決定。なんとも課題が残る1日となった。

4日目【曇り】

5:40 発

7:20 爺ヶ岳スキー場

前日と変わって視界は良くなっており安心感があった。2ピッチほどで下山。総括 五竜東面登攀の予定のサブプランとしてこの縦走案が出た。主稜線上はほ

ぼ夏道で緊張感が無かったが、厳冬期を想像すると恐ろしい。ビバーク地点も少なく逃げ場もない。はまったらどうなるのか。白沢天狗尾根は使ったことがなく情報量も少なかったので面白そうだと思います。使ったが、なかなか嫌な思い出になった。爺ヶ岳に行きたくて冬に使うなら南尾根や東尾根の方がよさそう。我々も迷ったが白沢天狗山から下部は小さな尾根が並んでおり注意が必要。2年はルーファイ能力うんぬんよりも2人で話し合い決定力がないように見られ相性が悪いのかなという印象。後は体力・集中力。小林から2年を注意する場面が多く、内田にもう少し働いてほしかった。自分のルーファイ能力も甘かった。ガスってはいたが言い訳にできないものだと思う。初心を忘れずに向上していきたい。

GW 五竜南下

メンバー：小林、北見(会 4)、内田(会 3)、長谷川、渡部(会 2)

1 日目 北上隊と同じ

2 日目 【晴れ】

4:30 五竜山荘 発

5:30 五竜岳

8:35 北尾根頭

10:20 キレット小屋

14:00 鹿島槍南峰

15:40 冷池山荘手前 T.S.

五竜の登りは少し雪がありアイゼンをつけたがそれ以降はほぼ夏道が出ていた。唯一、キレットにはやらしく残っていて気を引き締められたが、その後ただの縦走路。キレットに限らず稜線上は積雪

状態により相当悪いように思われた。今回でも冷池に着いたのが 16 時手前なので余裕を持った行動計画が必要である。

3 日目【曇り】

4:30 発

5:40 爺ヶ岳

6:40 白沢天狗尾根と東尾根の JP

10:05 1994 の鞍部

13:00 白沢天狗山

16:30 ビバーク

爺ヶ岳までは残雪があるものの単調。目指すべき白沢天狗尾根ははっきりと見えていた。1 日で下れるなーなんて思っていたがそうはいかなかった。始めは 2 年に先頭を任せていたが意見を言い合わず、迷いながらも先に行ってしまう。戻ること必要だと教えた。その後、ガスが出てきて皆でルーファイして進むが深い藪漕ぎで思ったように進まない。2 年生は藪漕ぎ自体初めてだと言い、体力を消耗していた。藪漕ぎ後の一本で水の入ったポリタンを 1 つ無くしていたことに気付いた。おそらく団装分け中に紛失したのだろう。節水しながら進むが道間違いを 2 度してしまった。正規ルートで懸垂も 1 度出た(白沢天狗山のコル:1970m 付近)。白沢天狗山を越えた後、2 年生に疲れが見え始め、小滑落も目立つようになった。そこでさらに尾根を間違えていることに気づき(1850m 付近)、この日は正規の道に 100m ほど登り返しビバークすることを決定。なんとも課題が残る 1 日となった。

4 日目【曇り】

5:40 発

7:20 爺ヶ岳スキー場

前日と変わって視界は良くなっており

安心感があつた。2ピッチほどで下山。
総括 五竜東面登攀の予定のサブプランとしてこの縦走案が出た。主稜線上はほぼ夏道で緊張感が無かつたが、厳冬期を想像すると恐ろしい。ビバーク地点も少なく逃げ場もない。はまったらどうなるのか。白沢天狗尾根は使つたことがなく情報量も少なかつたので面白そうだと思ひ使つたが、なかなか嫌な思い出になつた。爺ヶ岳に行きたくて冬に使うなら南尾根や東尾根の方がよさそう。我々も迷つたが白沢天狗山から下部は小さな尾根が並んでおり注意が必要。2年はルーファイ能力うんぬんよりも2人で話し合い決定力がないように見られ相性が悪いのかなという印象。後は体力・集中力。小林から2年を注意する場面が多く、内田にもう少し働いてほしかつた。自分のルーファイ能力も甘かつた。ガスってはいたが言い訳にできないものだと思う。初心を忘れずに向上していきたい。

GW山行 燕~大滝山縦走

日程：2015年5月2日~5月5日

山城：北アルプス 表銀座

メンバー：片野、植野、大槻、河村、城田

行動記録：

5月2日 晴れ 5月3日 晴れ

6:30 中房温泉発

9:30 合戦小屋

10:40 燕山荘

11:20 燕岳山頂 12:00 燕山荘発

17:00 大天井岳

17:20 大天井山荘 6:20 テント

場発

8:40 常念小屋

10:20 常念岳

14:00 蝶槍

15:10 蝶が岳ヒュッテ

5月4日 雨 5月5日 晴れ

城田発熱のため沈殿。 7:00 テン場発

8:50 まめうち平

10:30 登山口

連日の晴れの影響で、縦走路に雪はほとんどなく、穏やかな天候のもと、快適に登山を楽しむことができた。ほぼ夏道であつたため、ロープどころか、アイゼンも三股への下山以外は使わなかつた。テント場には連日大勢人がいた。1日目2日目は予定よりも進むことができ、2日で蝶が岳ヒュッテまで行くことができた。2年生を先頭に歩かせたが、問題な箇所もなかつたため、大天井岳のルーファイに少し戸惑っていたほかは特に問題なかつた。3日目の城田の発熱でエスケープ下山となつたが、大事に至らず全員無事下山できた。

反省：天候がよく風もなかつたので、暑さにやられ1日目、2日目は水不足に悩まされた。誰がどの程度水を所有しているか把握しておらず、残り1L時点で気づくという致命的なミスをおかす。見通しが甘く、3時間でつくだらうというところを5時間かかるということもあつた。これは、各々がメンバーの実力や水分消費量を知らずにいたためである。これからの季節は予備の水を用意して、安全登山にするべきである。

西穂高岳

日程：2015年5月16日~5月17日

山城：北アルプス 西穂高岳

メンバー：片野亜紀、城田曜子、松橋華世

行動記録：

5月16日 雨のち曇り

10:30 上高地発

12:30 岳沢小屋 T.S.

5月17日 快晴

5:00 岳沢小屋発

5:45 西穂高沢末端

8:45 稜線到着

9:00 西穂高岳山頂 10:00 発

11:00 西穂高沢末端

12:00 岳沢小屋 13:00 発

14:00 上高地

岳沢までの道は夏道がほとんどでいて、雪がある場所もアイゼンは必要ない。朝早いと凍っていて少し滑りやすいかもしれないが問題ないだろう。西穂高沢は末端から稜線まできれいに雪がつながっていたので、問題なく登ることができた。上部に行くほど落石が多く、斜度がきついため注意が必要。条件がよかったので、下りはシリセードも交えながら降りることができた。

反省・感想：

1日目岳沢、2日目西穂高岳ピストンというお手軽プランではあったが、第一回女子登山の場として良い山頂が踏めたと感じた。念願かなって、長年閉ざされていた歴史を開くときということで、かなり感慨深いものがあった。私はあと1年だが、女子だけでもバリエーションや登攀に挑戦できる日も遠くはないかもしれない。

雄山東尾根

日程 5/16～17

行程 黒部ケーブルカー 黒部平駅～(雄山東尾根)～2681～雷電峰～雄山～一ノ越～龍王岳～浄土山～室堂

メンバー L加藤穂高、菊田水樹(会2)、大槻泰彦、長谷川士門(会1)

行動記録

5/16(土)

10:23 黒部平駅

15:30 2800T.S

雄山東尾根とは、立山雄山より黒部湖側に落ちる尾根で黒部ダムのアーチを支えている。初日は雨が弱まるのを待ち扇沢からトロリーバスに乗って遅めの出発。ケーブルカーに乗り継ぎ黒部平駅後方の藪尾根に取り付く。下部の藪をぬけると上部は快適な雪稜となっていた。午前中はかなりの雨だったが午後から天候回復。この日は雷電峰手前の2800mピークに幕営とする。黒部湖を望める最高のテング場だった。

5/17(日)

5:40 2800

5:50 雷電峰

6:30 雄山

7:30 一ノ越

8:30 龍王岳

9:00 浄土山

10:00 室堂

モルゲンロートとともに出発。槍・穂高の景色から振り返れば立山当面の第一～第三の尾根が黒々と見えた。雷電峰は北側斜面を簡単にまくことができた。雄山神社に荷物をデポし雄山山頂へ。ここまできると室堂からの登山者が数名いらっしやる。ここから一ノ越に下り龍王岳まで

寄り道した。龍王岳へは富山大学立山研究所のそばに荷物をデポさせていただきピストンした。研究所から向かって右上するバンドが簡単に登れる。浄土山も經由して室堂に下山した。アルペンルート交通費が痛いがこの時期に雪尾根を歩けるのは、なかなか魅力的だ。

◎6月

奥秩父 金山沢・大荒川谷～ナメラ沢

日程：2015年6月6日～7日

メンバー：L 塩谷晃司(会3) 片野亜紀(会4) 内田祥平 加藤穂高 蒲澤翔(会3)

行程：川又～金山沢～大荒川谷～西破風山～ナメラ沢～道の駅みとみ

行動記録：

6月6日(1日目)

4:00 松本=6:20 道の駅みとみ=7:10 入川溪流釣り場～8:00 赤沢谷出合～10:00 入溪～12:00 金山沢出合～14:30 ゴンザノ滝～15:00 ゴンザノ滝上(B.P)

甲府のコンビニで、伊那組と合流。道の駅みとみに1台車をデポし、内田の車で川又へ向かう。車は入川溪流釣り場の駐車場(500円/1日)に停めた。雨は上がっていたが、本流は多少増水気味である。森林軌道の遺構をたどり、1pで赤沢谷出合。ここから入溪もできるが、今回は金山沢出合から入溪という計画だ。さらに登山道を行き、金山沢出合へコンタクトする尾根を下るのであるが、方角の一致する一つ手前の尾根を下ってしまった。これは、完全に油断であった。気づいたのはかなり下った後だったので、そのまま入川本流に出て、遡行を開始した。本流は技術的に特に難しくはないが、水量が多いの

で、沢初めてのメンバーには厳しいように見えた。巻けるところも果敢に水線突破していったため、全身ずぶ濡れになる。天気がいいわけでもなく、かなり寒い思いをした。金山沢の前半部は、釜や淵が連続し、直登できるものも多く楽しい。巻きは簡単なものが多いが、悪いものもある。また、釣り師がつけたと思われるfixは不安なものが多いので、確認してから使用するべきである。小荒川谷出合をB.Pとする予定であったが、ゴンザノ滝の高巻きが終了したあたりをB.Pとした。

6月7日(2日目)

6:00 起床～7:15B.P 発～8:15 小荒川谷出合～11:3015m 滝上～12:00 二俣～13:00 稜線出合～14:00 西破風山～17:30 道の駅みとみ

気温が低いため遅めの行動開始とした。小荒川谷出合付近には良いビバーク地がある。ここからは、多少水量は減るものの小滝が連続し、美しい溪相となる。後半の滝もロープレスで直登できるものが多く、快適である。唯一ロープを使用したのは、15m滝で、右壁に1p延ばす。プロテクションはカムを使用したか、フレアしておりなかなか決まらなかった。二俣を左に進み、がれ沢になってきたあたりで、左の尾根に乗り稜線へ。下降は予定通りナメラ沢を使用した。西破風山からの青笹尾根は上部が不明瞭なので注意が必要。乗ってしまえばピンクテープが比較的たくさんある。ナメラ沢はその名の通りナメ滝が連続し、楽しいがスリッパには要注意。下山が遅くなってしまったことが反省で、初日に荒川谷出合まで詰めて、出発を早めるべきであった。初日の段階で想

定よりもペースが遅いことはわかっていたのだから、もっと柔軟に対応すべきである。反省は多いが、本シーズン一発目の沢登りはかなり印象に残るものとなった。

錫杖岳

文責：小林

期間：6/5,6

メンバー：小林, 荒川 (会 4)

コースタイム：

6/5 【曇りのち雨】

5:45 新穂高温泉 発

7:30 岩小屋 着

8:00 発

8:30 1 ルンゼ取りつき

12:15 登攀終了 (6P)

13:20 取りつき (懸垂 4P)

見張り塔偵察

14:45 岩小屋

6/6 【雨のち曇り】

15:20 下山開始

17:00 新穂高温泉

概要・所感

今シーズン初本チャンということで緊張感を持った登攀となった。錫杖沢には登山道との出会いから雪渓が残っておりうすうすのスノーブリッジの通過が怖かった。初日上部を見た様子だと見張り塔の洞穴手前にも残雪があるように見え、この時期はまだ早いのかと思われた。下降の南牧沢にも雪渓が残っていると考えられる。1 ルンゼは 2P 省略したバンド上から取りつき登攀を開始した。左方カンテ取りつきから岩をみながら進んだら着い

ていた。上部に V 字岩壁が見えているため間違えないだろう。ルートのコアは 4P のハングでトポでは真ん中の小クラック沿いと書いてあるが右のルンゼ状から登った。ここのリードは荒川で残置もあったためヌンチャクを多用し通過。その後は濡れたチムニーなどを登り横断バンドで終了。各ピッチの終了点が登っている間に見えてそこで切りたくなるが、いざ行っているとボルトに直接太いロープが通っており、カラビナなどは通せないため結局別で終了点を作る必要がある。そこで時間を使ってしまった。終了点を早く正確に作る力を身に着きたい。2 日目は昨晚から雨で昼からの回復に期待し翌日の登攀に期待したが一向に太陽が出ず、ガスの中だったので下山を決定。ちなみに岩小屋は増水すると川になった。場所を選ばなければ上からは防げるが下から濡れる。「この世に天国などない」

錫杖岳 2

文責：小林

期間：6/20

メンバー：小林 (会 4), 加藤穂 (会 3)

コースタイム：

6/20 【曇り時々晴れ後雨】

5:00 新穂高温泉 発

6:45 岩小屋 着

7:10 発

8:00 左方カンテ取りつき

13:00 登攀終了 (8P)

14:30 取りつき 着 (懸垂 3P)

15:30 岩小屋 発

17:10 新穂高温泉

左方カンテは登攀全日が雨だった場合など他ルートが無理そうなきよく登られているルートである。ネットでも「予定変更で左方カンテ」とよく書いてあり、それを信じ登ってみた。ルンゼ状や凹角内はびしょびしょで濡れぞうきんのようになるが注意していれば落ちるようなことはないだろう。核心部 3P 目や 7P (今回はトポの 5~6P を繋げたため 6P) 目は比較的乾いており、激悪というわけでもなくよい刺激になる。前日は深夜の 1 時から降っており当日も快晴ではなかったが核心部の乾きが早く登りきることができた。取りつき付近はルンゼ状から水が滴り落ちており萎縮してしまうが 3P が乾いていたならその先も登れると思われる。今回もその判断基準で登った。時間がかかってしまったのには濡れの恐怖が大きな要因だと思われる。加藤も初錫杖で登攀に不慣れさが見えた。現在長野組が少なく、上級生が見ていないことが影響している。

また私自身初めて樹林を抜け稜上まで出たが、烏帽子に繋がる稜線に魅力を感じた。最後の登攀自体はつまらないが、景色もいいし時間があるならぜひとも上まで抜けるのを勧めする。6 月初旬の雪渓はほとんど消えていた。

白馬三山

報告者：山下 耕平 (会 2)

山行期間：2015 年 6 月 6 日(土)~7(日)

山行メンバー：[会 2] 山下 耕平(CL) 大槻 泰彦

[会 1] 村上 友理 藪内

鷹佑

行程

《 0 日目 》

猿倉前泊

BOX を出る時点で、雨脚は強かった。途中、松本駅で大槻を拾い、和食堂でうまい飯をたいたらげたと、猿倉荘駐車場で前泊。初日からテントを濡らすのは嫌だったため、テントは張らずに車内で睡眠をとったが、横になることができなかつたためか、全員ほとんど眠れなかつた。

《 1 日目 》

0400 起床

0445 猿倉荘発

0545 小日向のコル手前 1000m 付近

0700 小日向のコル手前

0750 小日向のコル

1020 白馬鑓温泉

1150 2350m 付近

1305 稜線分岐(T.S.)

朝起床した段階では、雲行きこそ怪しかったものの、雨は降っていなかったため、ひとまず雨具は着用せずに出発の支度をした。夜あまり寝られなかつた割には、1 年生も元気であった。1 年生、2 年生ともに初めての週末山行であるから、気を引き締めて猿倉荘を出発した。

初めは大雪渓方面の登山道を歩き、15 分ほどしたところで鑓温泉方面への分岐が出てくる。分岐からしばらく進むと、少しずつ雪が出てくる。6 月初旬の白馬鑓温泉方面への記録は、山スキーのものが少し出てくるくらいで、皆無に等しい。この時

期は残雪で道が不明瞭なため、白馬岳へは大雪渓を登るルートが一般的らしい。

1ピッチも歩かないうちに雨が降り始め、雨具を着用した。この日はこの先、雨具を脱ぐことはなかった。

小日向のコル方面へ進んでいくが、残雪によって夏道が途切れてしまったことや、途中から濃いガスのために先の見通しが利かなかったこともあり、結局、小日向のコルまで3時間もかかってしまった。コル直下では少しばかり夏道も出てきてはいたものの、基本的には雪上での歩行・ルーファイとなった。

小日向のコルより先の本来の夏道は、斜面をトラバースしながら鑓温泉に向かうものであるが、当たり前ではあるが、まだ夏道は出ていない。一度沢方向に下りて、鑓温泉直下の沢を再び詰めるというルート取りをすることにした。こちらのほうが、地形的にルーファイの判断がしやすく、濃いガスが出てはいたものの、なんとか鑓温泉にたどり着くことができた。1年生も、つらそうではあったものの、よくついてきていた。鑓温泉、一度は入ってみたいが、今日は時間的に厳しいのでパス。鑓温泉から先も、夏道のついている稜よりもさらに左側の沢を詰めていくことにした。途中で稜を横切って、稜の右側の沢に出なければならぬのだが、ここでのルーファイを間違えてしまい、無駄な藪漕ぎを強いられることになった。また、傾斜の急な雪上を、雪上技術の未熟な1年生を長時間歩かせたことで、1年生の集中力が切れてしまい、村上の滑落未遂があったりと、上級生として緩急をつけた指導ができていなかったのは反省すべき

である。

右側の沢をずっと詰めていくと、途中で夏道に合流し、夏道をしばらく登っていくと、稜線との合流点についた。本来ならば、頂上山荘まで向かうつもりであったが、稜線に出たとたん、風雨が激しさを増し、このまま進めば低体温症になる危険性もあったため、今日の行程は稜線に出たここで切ることにした。

初めての週末山行で、雪上でのルーファイや1年生の指導など、白馬三山は手ごわかった。夕食の親子丼が、冷え切った体を温めてくれた。

《2日目》

0330 起床

0505 発

0530 白馬鑓ヶ岳

0600 杓子岳手前のコル

0630 杓子岳

0700 頂上宿舎手前のコル

0730 頂上宿舎(デポ)

0800~0850 白馬岳ピストン

0930 頂上宿舎発

1045 白馬尻小屋

1130 猿倉荘

朝起きた段階では、風が強く、あたり一面ガスであった。だが、今日は下山日であるため、意を決して外に出て、出発準備をする。すると、なんとということであろうか。一面に出ていたガスが晴れ渡り、一瞬にして快晴となった。これは行ける、そう確信し、歩みを進める。

個人的にはGWにも一度通っている稜線であったので、勝手は分かっていた。昨日

とは打って変わって、一年生も心なしか楽しそうである。村上、昨日あんなに「もう白馬には来たくない」って言ってたのにな。

白馬鑓ヶ岳、杓子岳と、歩きやすい稜線を順調にこなしていき、最後はメインディッシュである白馬岳へ登って、全員でアロハシャツで記念撮影。昨日はあんなに黙り込んでいた藪内も楽しそうで、こちらとしてもなんだか嬉しくなった。その後は大雪渓を下って、猿倉まで。大雪渓では常に落石の音がしていたので、注意喚起をしながらハイペースで下った。

昨日までの天候が嘘のような、爽やかな6月の空が広がっていた。

6月初旬の白馬三山は、週末山行が初めての1年生、2年生双方にとって、リスクの高い山である。天候が悪ければ、ルーフアイの難しさや、低体温症になるリスクなど。今回は、2年生の相方が大槻であったことや、1年生も比較的歩ける二人であったことから、何事もなく下山できたが、もし今後白馬三山を計画することがあるのならば、そのあたりをよく踏まえたうえで、7月に入ってからのするなり、大雪渓ピストンにするなり、よく考えてほしい。今回はそのことを甘く考えていた。山行を出すにあたって、次回からは十分注意したい。

燕岳～常念岳

日程 2015年6月6日～7日

メンバー：植野 侃太郎（会2） 長谷川 士門（会2）
稲垣 翔（会1）

記録

6月6日

4:30 起床

5:00 穂高駅発

5:40 中房温泉着

6:03 中房温泉発

8:51 合戦小屋

10:06 燕山荘

10:37 燕岳

11:25 燕山荘発

14:42 大天井岳

15:05 大天荘

前日夜に穂高駅まで移動し前泊。朝 5:00に駅にタクシーを予約しておいた。

天気は小雨。週末なので登山口は人が大勢いた。靴を履き替え、合羽を着て出発する。

6時に中房温泉を出発し、雨でぬれた合戦尾根を登っていく。途中、第一ベンチにて給水。

小屋で買うこともできるが、水場は表銀座ではここだけである。その後、順調に登りを進め9時頃に合戦小屋に着いた。ここで少し天気が回復し晴れ間が見えてきた。山頂への期待が高まる。樹林帯を抜け、合戦沢の頭に出ると雪が残っていたので、ピッケルを装着する。

雪は燕山荘直下まで続いていた。10時に燕山荘に着き、荷物をデポして燕岳へ向かう。

しかし、雲が出て来たため展望は今一つであった。

燕岳をピストンし、燕山荘を出発。蛙岩までにも稜線にある程度雪が残っていた。クライムダウンが必要な箇所もあったため、慎重に進む。為右衛門吊岩やその先は

雪が少なかった。大天井はトラバースと直登の二つのルートがあるが、トラバースの道を雪が覆っていたため直登し 15 時前に山頂に着いた。10 時間程を見積もっていたが 8 時間で着くことが出来た。トラバースと直登の分岐は判りづらいため注意。すぐに直登ルートに引き込まれる。

また、大天荘で水を買えると書いたが、この時期はまだ開業していないので注意。

小屋の開業時期には注意して欲しい。

6月7日

3:30 起床

4:55 出発

6:55 常念小屋

8:06 常念岳

9:30 常念小屋発

12:57 一ノ沢登山口

二日目、大天井岳に再度登頂。快晴で素晴らしい景色であった。

撤収して常念小屋へ出発。東大天井岳の先、松本側への下り道に雪が残っていた。結局ピッケルは装着しなかったが出しても良い場面だったと思う。迷うのなら出すべし。反省である。

その後、2 時間かけて常念小屋に到着。本当に天気が良かった。荷物をデポして常念岳に登る。空身にも関わらず、一時間ほどかかった。多少ゆっくり登ったとはいえ常念はやはり大きい。40 分ほど山頂でゆっくりして下りに入る。一ノ沢にも雪が残っていた。沢を横切る箇所が 2 カ所ほどあった。落石、滑落に注意して横切る。3 時間半かけて一ノ沢登山口に下山した。

爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳

山行日時 6月6日(土)～6月7日(日)

山行メンバー L 河村 松橋 (会2)

小笠原 小山 (会1)

行動記録

6月6日(土) 5時45分 柏原新

道登山口 10時35分 種池山荘着

11時10分 爺ヶ岳南峰

11時47分 爺ヶ岳中峰 3時00分

冷池山荘(テン場)着

6月7日(日) 3時00分 起床

5時15分 鹿島槍ヶ岳

6時30分 冷池山荘

10時00分 雪渓にて滑落事故(事故報告書参照)

15時55分 柏原新道登山口に下山

1 日目は松本の **BOX** に集合して登山口に向かった。登山口で河村が車のカギをなくすというアクシデントが発生し、入山が 15 分ほど遅れる。登山道はよく整備されており傾斜も緩やかで歩きやすい道が続いている。上り始めてから 1 時間 30 分程度で雪がところどころに出始める。ピッケルを出して慎重に進む。途中からガスが出始めたので少し晴れるのを待って落石を確認しながら慎重に進む。種池山荘の直下に大きな雪渓があるため滑らないように注意喚起しながら進む。種池山荘から先は 50 メートルほど雪が残っているもののそこからの稜線には雪は残っていなかった。そこからの稜線にはほかの登山者もパラパラと見かけるようになる。爺ヶ岳の山頂でゆっくりと一本を取った後快適な稜線を冷池山荘までの道を進む。冷池山荘の手前で再び雪が出てくる。ここでは山荘の方たちが階段

を作ってくださっていたためすんなりと通過できる。テン場にはほかに人も少なく快適に過ごす。2日目はアタック装備で鹿島槍ヶ岳の山頂までピストンする。冷池山荘から鹿島槍ヶ岳までは最初雪が出てくる。朝早く凍っているため慎重に進む。鹿島槍ヶ岳山頂でゆっくりと朝日を見た後テン場までかえってテントをかたづけ出発する。昨日と同じ道を帰り種池山荘まで行く。種池山荘から少し降りたところで滑落事故が起きる。詳細は事故報告書に記載。事故後は山荘の方たちと一緒に下山し、途中県警の方に引き継いでもらい下山。

中央アルプス 檜尾岳～木曾駒

日程：2015年6月21日～22日

山域：中央アルプス 檜尾岳～木曾駒

メンバー：片野亜紀、渡部優

行動記録：

6月21日 霧、霧雨 6月22日 雨

7:40 檜尾尾根登山口

12:40 檜尾岳

15:30 三ノ沢岳分岐

16:00 宝剣岳

16:30 頂上山荘 5:00 起床

6:10 頂上山荘発

6:20 木曾駒ヶ岳

8:30 将棋の頭山

9:30 信大ルート分岐

11:00 桂木場

檜尾尾根自体は、長くて単調な尾根である。特に危険箇所はない。檜尾岳避難小屋につくまでは、樹林帯のなかをひたすら登るといった感じで、小屋手前で突然視界が開ける。残雪も少し残るが、ピッケ

ルが必要なほどではない。事故現場であろう場所は、だだっぴろい尾根であり、視界が悪ければ雪崩斜面に入ってしまうということは、認識することができた。雨の中の稜線歩きは上級生だけということもあり、休憩はとらなかったが、1年がいる場合は一度休憩をはさむべきだろう。雨の中の稜線歩きは思ったよりも体力が奪われる。信大ルートも特に歩きにくいこともない。ただ急で、登りに使うには少しきついという程度で、夏場は迷うこともない。下の方は沢が崩落しているが、場所を選べば通過可能。

鳳凰三山

日程：2015.6.6～7

メンバー

：L 渡部 城田(会2) 会原 前田 山口(会1)

[コース=タイム]

6日

5:20～8:20 松本 ST～青木鉱泉出発

9:20 南精進ヶ滝手前

10:40 白糸の滝手前尾根上

11:40 1942mpo …※1

12:40 五色の滝

13:45 鳳凰小屋(=T.S.)

7日

4:20 T.S.出発

5:10-5:40 地藏ヶ岳 …※2

7:00 観音ヶ岳 …※3

8:10-8:40 薬師ヶ岳

9:20 2300mpo

12:10 林道

13:15 青木鉱泉

[特記事項]

※1 白糸の滝近辺の登山道

南精進ヶ滝～白糸の滝の区間には登山道が2つある。(1/25,000,エアリアの鳳凰三山 白糸の滝近辺を参照ください)南精進ヶ滝より先に分岐があり、そこから

・尾根～滝壺付近の岩～急登～1942m 破線

・(恐らく)谷筋～1942m 先

の様に派生し合流する。1/25,000(旧版)には前者が、エアリアには後者が登山道として記されている。鳳凰小屋の主人に確認してみたが前者は旧道であり、歩きの経験としては良いものになる。

※2 オベリスク

基部までは普通に、その先 ch～ow～fc(15m)はアンザイレン(FIX ロープはボロボロ)…もちろん今回は指をくわえるだけ。

※3 残雪

傾斜の緩いルンゼ内に4m程残っていた。ピッケルは不要のレベル。年、山域にもよるだろうが6月初旬の南アであれば、曖昧な表現にはなるが、日の当たらなさそうな(地形、方角的に)ポイントが核心でもない限りピッケルは不要でしょうか。参考程度です。

[反省・感想]

・1942m 付近のルートイメージができていなかった。→地形図からルート状況を「想定する力」を身につける。

無積雪期の鳳凰三山は“行程が短く” “道は歩きやすく” “読図は易しい”。…だから得るものは少ないということではなく、“注意喚起” “読図の基本” “足置き” など新人合宿で教わったことの中でも

「基本のき」を復習するのにはちょうど良いルートだと思った。

最初はできなくて当たり前。だからこそ、特に読図のやり方なんて、現地でじっくり教えてあげたいものです。…シンプルな分、新人合宿でできなかったことをじっくり身に付けられる…滝も良いけど、これもアピールポイントでは!?

“南アルプス空中散歩“南アへのモチベーションが上がってしょうがない、「週末一発目」に推して止まないルートです!

仙丈ヶ岳～甲斐駒ヶ岳

日程：2015/6/20～21

メンバー：会2) L大槻 城田 会1) 村上 山口

行程：6/19 市野瀬前泊

6/20 市野瀬～(地藏尾根)～仙丈ヶ岳～北沢峠

6/21 北沢峠～仙水峠～駒津峰⇄甲斐駒ヶ岳～双児山～北沢峠

記録：

6/19

信濃路でジャンカツアタックの後、内田さんに市野瀬まで送ってもらい、前泊。駐車場の位置をはっきり把握しておらず、迷って少し時間をロスした。反省。城田は完食目前の山口のジャンカツを、本人がトイレに立った隙につまみ食いしたが、山口は全く気付いていなかった。

6/20

4:00起床 4:50出発 6:50 1850m 付近 11:10 2736m 手前 12:55 仙丈ヶ岳 15:55 長衛小屋

地藏尾根の取り付き付近は道がよくわからないが、今年の記憶や記録を頼りに

進む。作業道があったり雑木林になったり分かりにくい、とりあえず上に向かえばなんとかなる。今回はいったん森の中へ突っ込んだもののすぐに登山道に復帰できた。2736を超えるあたりまではずっと樹林帯の長い尾根だが、尾根の屈曲や急登・平地など特徴的な地形があり、読図の練習になる。1年生はほとんどの箇所ですぐに根拠を持って現在位置を把握できていたと思う仙丈直下での残雪が心配されたが、念のため短い雪渓でピッケルを出した以外は危険箇所は無く、仙丈～小仙丈間に昨年あったナイフリッジもどきも今年は全くなかった。長衛小屋は営業開始しており、水もドバドバ出ている。

6/21

3:30 起床 4:30 出発 5:25 仙水峠 6:25 駒津峰 7:40 2800m 付近 8:00 甲斐駒ヶ岳 9:15 駒津峰

10:00 双児山 11:05 長衛小屋

天気予報では6:00から雨。とりあえず出発し、駒津峰に着いたところで雨が降り出す。小雨だったため行けると判断し甲斐駒に向けて出発。2800付近でガスで視界不良となり、山頂直下はすべりやすいので少し偵察をしたところ行けそうだったので再び出発した。甲斐駒山頂では雨がみぞれにかわり、村上が特に寒そうにしていたため早々に下り始めた。駒津峰～甲斐駒間は直登コースを通ったが、乗越しの必要な箇所など1年生も丁寧であった。駒津峰以降では、山口が樹林帯の下りで根に躓き転倒しかけるといったことがあった。歩幅を小さくするなど、安定した歩行のための工夫をするようにアドバイスした。

尾白川 鞍掛沢～乗越沢

日程：2015年6月17日

メンバー：松田浩和（OB）城田曜子（会2）山下耕平（会2）

矢立石	6:20/6:42
錦滝	7:45
尾白川入渓点	7:55
本谷出合	9:15
乗越沢出合	11:50
鞍掛山	14:07
駒岩	15:10
錦滝	17:32
矢立石	18:15

矢立石（日向山登山口）から入渓点までは1時間少々。冬季にアイスクライミングで訪れた錦滝を過ぎ、林道終点から入渓点まで急坂を100mほど降下する。ロープは張ってあるが、注意が必要な箇所である。本谷との出合いはわかりやすく、我々は右手の鞍掛沢へと向かう。

鞍掛沢は比較的明るい沢であるなという印象。泳ぐようなゴルジュが登場する場面はないが、小滝やナメが十分に楽しめる。本谷出合から2時間半ほどで、水量が大きく減る乗越沢出合に到着。この先やや傾斜がきつくなる。本来ならここをつめると鞍掛山と駒岩の科尔へ出るのがあるが、我々は右側のかなり悪いルンゼへと入り込んでしまった。そのためここで大きな時間ロスをしてしまう。その後、やっとの思いで着いた駒岩で沢靴を脱ぎ、我々は矢立石へと駆け足で戻った。

◎7月

妙高山

日程：2015年7月11～12日

メンバー：城田曜子、大槻泰彦、渡部優(会2)、稲垣翔、小山悠太(会1)

7月10日【0日目】

松本駅＝関山駅(前泊)

7月11日【1日目】

燕温泉 8:13

胸突八丁 9:56

天狗堂 10:38

風穴 10:56

妙高山 12:09

黒沢池ヒュッテ 15:15

高谷池ヒュッテ 16:25

天気は快晴。堪える暑さの中、北地獄谷沿いを進む。胸突八丁付近にはまだ雪渓が残っていた。胸突八丁の急坂に耐え、2ピッチほど歩くと風穴に到着。ここで一同、風穴に顔を近づけ涼をとる。穴から抜ける風が気持ちいい。次第に展望が開け、妙高山直下の鎖場に到着。岩が階段場に掘られており、落石も少ないため特に問題はない。この日の天候は素晴らしく、山頂では1時間ほどのんびりと過ごした。高谷池ヒュッテのテン場はまだ雪が残っており、雪上にテントを張らなければならなかったが、そのためかテン場代は一人100円という格安な料金だった。

7月11日【2日目】

高谷池ヒュッテ 4:05 発

火打山 5:18

胴抜切戸 7:03

焼山 8:36

泊岩 10:43

杉野沢橋 15:40

笹ヶ峰 16:26

朝焼けの中、天狗の庭を歩く。途中足を止めて朝日を拝みながらも、休みをとらずに火打山山頂へ。ここから先は登山者の数がぐんと減る。そのためか、草藪が道をふさいでしまっているため歩きづらい。焼山直下はまだ雪が残っており、傾斜も急であるためピッケルとヘルメットを装着。所々カニ歩きやクライムアップで登っていく。富士見峠を通過後も雪渓がかなり残っており、足を滑らせたなら止まらないであろうトラバースも出てくるため注意が必要だ。この日の行動時間は12時間と長かったものの、一年生も元気に完歩してくれたのでよかった。

八ヶ岳全山・蓼科山縦走

日程：2015/7/24～25

メンバー：会2) L大槻 植野 会1) 村上 藪内 山口

行程：7/23 松本＝小淵沢＝観音平

7/24 観音平～編笠山～権現岳～赤岳～硫黄岳～天狗岳～黒百合ヒュッテ

7/25 黒百合ヒュッテ～麦草峠～北横岳～蓼科山～女神茶屋登山口

記録：

7/24

3:30 起床 4:05 出発 6:15 編笠山 8:00 権現岳 10:30 赤岳 13:00 硫黄岳 15:40 黒百合ヒュッテ

前日の就寝が 21:45 と短めの睡眠であったことと、以前の八ヶ岳での経験から、序盤はゆっくり目のペースを意識して進む。赤岳の登りは岩場の乗越やハシゴ場も多く気が抜けないため、特にゆっくり行こうと考えていたが、今回は風が比較的強く、厚さをあまり感じなかったため

スムーズに工程をこなすことができた。1年生も赤岳や横岳周辺の岩場では慎重な足置きや浮石への意識が見られた。硫黄岳に着くころには若干疲れも見られたが、特に山口と村上はべらべらとしゃべって、いてまだ余裕が見られた。藪内は疲れてくると口数が減る印象。黒百合ヒュッテは建物内の受付前に天水のタンクがあり、そこから水をもらえるのだが、あまり容量がないため複数のポリタンに水を入れようとするとかかなりの量を持っていくことになってしまい後ろめたいので、担いでいった方がよい。

7/25

2:30 起床 3:40 出発 4:50 高見石小屋 6:00 麦草峠 9:00 北横岳 10:10 亀甲池 11:25 蓼科山

14:30 女神茶屋登山口

北八ヶ岳は樹林帯が多いため、風がなくこの日は特に蓼科山の登りが暑かった。しかし前日の長時間行動にもかかわらず1年生は元気で、あっさりと行程を通せた印象である。全体的にこの日は悪場もそんなになく特筆すべきことは見当たらない。

全体を通して、1年生は岩場やゴーロ帯の下りでの足置きが雑な印象を受けた。特に疲れてくると顕著になる。夏縦走では重荷を背負うことになるし、膝などを傷めないためにも足置きを意識してほしい。今山行を行程通り通せたことは1年生が元気だったことによるところも大きく、その点では頼もしい限りである。

八ヶ岳大同心登攀（雲稜ルート・南稜）

2015.7.11～12

メンバー：L 荒川4 加藤了4

大同心の頭ベース大同心雲稜&南稜。南稜は冬のリベンジである。大同心は冬のイメージが強いが最近には夏に登られることも珍しくないようだ。支点が多いのはいいが、ときどきドアノブがとれる。

雲量の登攀は5P（4Pはほぼトラバース）。どのピッチも立っていて難しい。特に2ピッチ目はスラブで冬は特に難しいだろう。他のピッチでも垂直～カブリ気味の部分がある。アブミは5Pで3回くらい架け替えて使用した。フォローではフリーで行けた。ホールドが大きいので思い切っていくべし。大同心ルンゼは歩行できる。大同心の頭ベースにしたが赤岳鉱泉ベース or ワンデイでもいいかもしれない。

白馬三山～唐松岳

2015.07.25-26

メンバー

：L 渡部優、長谷川士門(会2)

：小笠原一樹、小山悠太(会1)

コース＝タイム

[0日目：前泊]

松本 BOX～猿倉荘駐車場

(車 1h20m)

[1日目：白馬三山：曇～ガス～快晴]

6:05 駐車場出発

6:50～7:10 白馬尻小屋

8:15～8:30 岩室直下…※1

10:00～10:05 頂上宿舎(～11:15)

10:35～10:55 白馬岳(ピストン)

12:20~12:40 杓子岳…※2
13:35~13:50 白馬鑓ヶ岳…※2
14:35 天狗山荘=T.S.
[2日目：不帰キレット：快晴]
3:30~4:30 起床～出発
5:45~6:00 最低コル…※3
6:20~6:25 一峰…※2
6:50~7:05 二峰北峰空中梯子先信州側
7:45~8:00 二峰本峰
8:30~9:35(~9:55) 唐松岳(山荘トイレ)
10:45~11:00 2361mpo 手前
11:30~12:00 クワッドリフト
13:00 黒菱駐車場=<Taxi>=白馬駅

特記事項-ルート状況

※1 大雪溪通過

天気図より日照が経過するほどガスが予想されたので、ペース早めで行く。1年生はしっかりついてきてくれました。ありがとう。大雪溪上部ほど、自然落石が多くなっていく模様。一本とった横の斜面から下に向かってゴロゴロいくものをいくつか見た。

※2 小笠原腰痛

持病の症状がでたので、杓子岳の分岐手前にて一本とる。「連続して負荷がかかる時間に比例して痛む」とのことなので、以降様子を聞き痛む場合は30分目安に小休止(ザック下ろさせ楽な姿勢をとってもらい)をいれる。冬が心配だ。注意して見てあげねば。

※3 不帰キレット

・天狗の大下り

浮石、落石に始終注意しながらの30分強の急な下り。悪場には最近新調したらしい鎖がばっちり。集中力の維持が大切。

・二峰北峰越え

予想以上に浮石がなくて驚く。それだけ人が通過しているということで、先行パーティの落石、すれ違いのタイミングなんかは気をを使う。今回の渋滞ポイントは”北峰直下の鎖トラバース”であったが、すれ違えるポイントの方が多い。ホールドが大きくかつしっかりしており、非常によく鎖が整備されていて、乾いていればどちらの方向から行こうと、これといった怖いクライムダウン箇所はないと思う。

※1年生様子

大雪溪、岩場歩き、最後の登りらへんでひいひい言う姿はあったものの、2人とも集中を維持して歩いており安心して見ていられた。落石0。

反省-感想

・不帰キレット

大キレット、ジャンダルムと比べると、同じ「一般路の中の難路」と言っても大分差を感じた。「浮石の量」「ホールドの質」「尾根の細さ」の点で見ると、”言われてるほど悪くない”といった印象だ。ただ悪天時、ポイントで「二峰北峰白馬側の垂壁」が核心となる。1年生縦走で通過することへの承認の目安としては、上級生はそのパーティ全員の「気力体力」「クライミング能力(山靴での立ちこみ足置きとか、岩トレの様子)」「岩場歩きの得て不得て」らへんと「計画の柔軟性(悪天に対応可能か)」なんかを見てあげることが必要だなと感じた。

・2年生の役割

それは同時に、自分の「1年生を育てる」2年生の役割の甘さへの気づきになった。1年生縦走は気楽という意味でお楽しみ

な面もあるが、自分らだけで情報把握→想定→判断の経験ができる、「ステップアップの絶好の機会」だ。充実したルートがよりその経験を約束してくれる。”絶好の機会となる＝リスクコントロールできる範囲内のルートにする”ように「承認/不承認する（1年生をよく見たうえで）」姿勢が甘かったということだ。より「具体的に1年生みる目」を持とうと思った。

・今後の本ルートの展望

白馬三山+不帰でお腹いっぱいと思いきや、実際歩いてみると「この山行まだまだ充実できる…!」と思った。状況に応じて、唐松で切るのではなく五竜～遠見までつなげられる計画にすればかなりワクワクなルートになると思う。

笠ヶ岳

報告者：山下 耕平（会2）

山行期間：2015年7月11日(土)～12日(日)

山行メンバー：[会2]山下 耕平(CL) 河村 将人

[会1] 会原 初美 村上

友理 山口 耕平

行程

《1日目》

0600 深山荘駐車場発
0705 笠新道登山口
0745 会原がフラフラするということで、
1550m 地点で1本
0845 1900m 付近
0955 2200m 付近
1115 杓子平
1250 稜線に出る
1410 笠ヶ岳山荘(T.S.)

朝 BOX を出発する。深山荘の駐車場が満車かどうか不安だったが、この時期ならこの時間でもまだ余裕があった。

蒲田川の左俣をずっと歩いていくと、笠新道の登山口へと出る。今日も暑くなりそうだから、ここで水分補給を兼ねた一本をとった。ここから先は笠新道の急登の始まり。最初にやたら飛ばしてしまったため、会原に熱中症のような症状が現れたため、1本をとり、塩分・水分補給をする。しかし、この日、会原の症状が改善することは一向になかった。後からであるが、おそらくは急激に高度を上げたために、高度障害がでたのではないかと考えられる。

その後も急登は続く。会原は依然辛そうであるが、村上と山口は元気そうだ。その元気を会原にも分けてやってほしいくらいだ。

杓子平より先は、少し雪渓も出てきたため、念のためピッケルを装着したものの、雪渓の区間自体は短く、必要な個所は稜線に出るしまえばもうなかった。稜線からは笠ヶ岳がきれいに見える。明日はあれに登るのか。楽しみだ。

《2日目》

0400 起床
0510 笠ヶ岳山荘発
0545 笠ヶ岳
0830 雷鳥岩
1030 1600m 付近
1120 錫杖沢出合
1205 穴滝
1235 クリヤ谷登山口

星が綺麗。そんな朝であった。相変わらず会原は体調が悪そうである。笠ヶ岳山頂に着いた際も、会原は一人つらそうであった。村上と山口が楽しそうだったのが何よりである。

今日の核心はクリヤ谷の下りである。昨年度は雨の中このクリヤ谷を下り、散々すっ転んでいた記憶しかないが、果たしてどうであろうか。今年度のクリヤ谷は倒木が多らしい。実際、15m くらいの木が、登山道に縦に倒れてゆく手を阻んでいたり、渡渉点に倒木があったりと、非常に荒れてていた。しかし、全体としては、去年の記憶が嘘のように、乾いたカピカピなクリヤ谷であった。

10:00 頃、河村が後方で足を捻り、その後、少々遅れるようになってしまったため、ペースを落としながらクリヤ谷の登山口へと下山した。このように、乾いていても、ゴロ帯では岩に足を持っていかれやすく、怪我をするリスクもあるため、1年生の様子ももっとよく見ながら歩くべきであると痛感した。

前穂北尾根

2015年7月18日～20日

メンバー 加藤了幹 片野亜紀

1日目

7:00 上高地～涸沢

あいにくの雨、予報を見てもこれからの天気は怪しい。なんとなくもやもやしたまま道を進んだ。連休だが、さすがに雨のために少なく感じた。涸沢には雪が残っており、テントも雪の上に張ることにな

った。

2日目

8:00 涸沢～12:00 3・4の科尔

昨日の雨が長く降り続けていたため、撤収を考えたが、晴れ間も見え次の日の天気もよさそうだったので、取り付きまでいって判断することにした。取り付きについてみると、岩も乾いていたので準備をして歩を進めた。しかし、4峰を過ぎたあたりで、雲行きが怪しくなり、3峰を目の前にした時点で本降りとなっていた。さすがに3峰はザイルが必要のようだったので、先に一人、雨の中3峰を進んでいた人がいたが、自分たちはその日はそこでテントを張ることにした。

3日目

8:00 3・4の科尔～前穂高山頂～15:00 上高地

風が強く、雲がよく動いていた。明るくなり、岩も乾いてから3峰を登りはじめた。片野が先行して、釣瓶で3p ザイルを出した。周りは雲が多かったが、晴れていれば気持ちがよいのだろうと思いながらザイルを伸ばす。その後は、短い懸垂以外はザイルも必要とすることなく、山頂に立った。3日間快晴の日はなく、本来予定していた明神まで通すことはできなかったが、岩や天気を見ながら一つの岩稜を通すことは良い経験になった。

北アルプス 裏銀座

日程 2015年7月18日～20日

メンバー: L 植野 侃太郎 (会2) 渡部 優 (会2)

前田 達樹 (会1) 会原

初美 (会1)

7月18日

8:10 高瀬ダム発

11:10 三角点

12:18 烏帽子小屋

13:35 烏帽子岳

当日朝に松本を出発し、8時に高瀬ダムに到着、入山した。高瀬ダムは電波が入らないので注意。三大急登であるブナ立尾根を登る。天気は生憎の雨。展望は悪く、そばの谷筋にわずかに雪渓が残っているのが確認できるくらいだった。雨の森は薄暗く、気が滅入るが登りを順調にこなし、4時間で烏帽子小屋に到着。テントを立ててから烏帽子岳へと向かった。

道中も霧が晴れず、展望はゼロ。残念であった。

7月19日

3:00 起床

4:30 出発

7:50 野口五郎岳

10:15 水晶小屋

11:08 水晶岳

14:07 三俣山荘

この日は天候が安定せず、一時は晴れ間も見えたものの雨または曇りだった。風も強く、合羽を着てちょうどいいぐらいであった。

裏銀座の稜線は思っていたよりもアップダウンがあった。しかし、それほど悪い道ではなく水晶小屋から水晶岳までの道が多少悪いところがあったぐらいであった。一年もそれほど疲れた様子を見せること

も無く、楽しそうに歩いていた。

7月20日

4:00 起床

5:10 出発

7:27 双六小屋

9:02 鏡平山荘

11:32 ワサビ平小屋

12:30 新穂高温泉

朝、外を見ると霧がたちこめていた。また、双六岳への稜線への道に雪がかなり残っており、

トレースも不明瞭だったため、巻道を利用した。そして、双六小屋への中間あたりでようやく今山行初の晴れを拝むことができた。巻道にもかなりの雪が残っており、長いところで70メートルほど雪渓上をトラバースすることになった。そして、双六小屋以降は雪は無くほぼコースタイム通りに下山することができた。

一年にとって今回の山行は夏縦走に向けたいい機会だったであろう。体力や技術を見直し、満を持して縦走に行ってほしいものである。

木曾駒ヶ岳 正沢川細尾沢

日程 7/11

行程 木曾駒高原スキー場跡～茶臼山方面へ渡る橋(入渓点)～細尾沢出合～木曾駒ヶ岳～7合目避難小屋～木曾駒高原スキー場跡

メンバー L 加藤徳高、塩谷晃司 (会3)

行動記録

07:10 木曾駒高原スキー場

07:30 入渓

09:00 細尾沢出合

09:40 大滝上

13:30 木曾駒ヶ岳

15:40 7合目避難小屋

18:20 木曾駒高原スキー場

正沢川の支流、細尾沢を遡行する。木曾駒高原スキー場跡に車を止め、茶臼岳コースを進んでいく。スキー場跡から20分ほどで正沢川を渡る橋に到着。ここから入渓し細尾沢を目指す。ゴーロが大きくフェルト靴で行った私はひとつひとつを越えるのに苦勞した。入渓してから1時間半ほどで細尾沢の出合に到着。細尾沢に入って最初は5mのナメ滝。右端のクラックから越える。これを過ぎるとすぐ核心の大滝が見えてくる。正面突破はとても考えられない。巻きは右からでガレ沢を少し登ってから左のルンゼに行く。岩が脆いが斜度はなくロープを出さずに突破できた。大滝を越えてからはいたって平和。2条4m滝は右の細い流れから越える。2条5m滝も同じく右の水流から。3m滝も楽々越えるとまるで堰堤のような4m滝が現れた。本流はツルツルで手がかりがないが左岸から巻ける。6mのS字滝を越えると迫力のある4段15mの滝。左右どちらでも登れる。続いて2段の15m滝、4mのナメ滝、2m滝、6m滝と続く。水量がありなかなか豪快ではあるが総じてどれも簡単。左から大きな支流が流入し谷は一旦開ける。右に大きなガレを見ると2段6m滝がかかる。この辺りから雪溪が出てきて沢筋を辿ることはできない。雪溪を右に避けるように左岸に上がり藪を進む。沢に水がなくなる頃藪から顔を出す岩に上がり木曾駒ヶ岳含む主稜線を確認する。地形図と照らし合わせルートを模索した。最後の詰め、雪溪が終ると脆いルンゼになりロープこそ出ないがクライミングとなる。

谷が終わると這松帯に入り登山道に出たがかなり左寄りに進んできてしまったようで木曾駒ヶ岳山頂よりだいぶ西側に抜けてしまった。山頂到着後装備解除、大休止。山頂バーベキューとはなんとも贅沢。帰りは福島Bコースに行くがこれが長い。3時間は見ておきたい。

紙媒体で見るグレードに比べると簡単な印象を受ける。歩きのしっかりした足並みの揃う者同士で行けばロープの出る所はなく日帰りで帰ってこれる。もっと雪溪の少ないときに沢筋を忠実に遡行したい。

中ア縦走

日程 7/18~7/20

メンバー 長谷川士門(会2) 小山悠太(会1) 山口耕平(会1)

コースタイム 1日目

桂小場発 6:00~西駒山荘 9:35~停滞 14:00

2日目

起床 2:00~西駒山荘発 3:00~木曾駒ヶ岳山頂 4:35~木曾駒頂上山荘着 5:00~木曾駒頂上山荘発 9:00~宝剣岳山頂 9:30~檜尾避難小屋着 12:30

3日目

起床 5:20~小屋発 6:20~木曾殿山荘 8:50~空木岳山頂 10:00~山頂発 10:30~空木岳避難小屋 11:05~下山 14:20

この山行は河村(会2)がもともとリーダーであったが、1週間前の山行で彼が怪我をしたために、急遽自分がリーダーとなり3人で行くこととなった。初日は入山前から雨。西駒山荘のある稜上にあがるまでで全員びしょ濡れとなったのだが、稜線に出た途端の風が追加。このまま進

めば低体温症になるリスクが高いと考えたため、西駒山荘に一時避難する。小屋の御主人の御厚意に甘え、岩室でしばらく休憩をとらせていただくが、1時間たってもまだ外は厳しい状態。御主人に相談し、このまま風雨が収まらないようなら岩室に素泊まり一人分の料金で三人を泊めてもらえることに。途中ストーブもつき、服も乾くが、いつまでたっても天候は安定しない。木曾駒頂上山荘までのコースタイムも考慮し、14時に停滞を決定。岩室は乾燥室も兼ねているようで、夜中11時までストーブのついた快適空間で就寝する。本当にありがたい。二日目は一日目の分も取り戻そうと3時に出発する。天候はそこまで悪くないがガスが濃い。ヘッデン行動もあいまってルーファイが少し大変になる。前日の遅れを意識しすぎて無茶をしてしまった。あのガスの濃さでは一般道でもリスクが格段に増えるということも考えてもう少し待つべきだっただろう。頂上也展望はなし。少し休んで歩き出すと前日に続き風雨が襲ってきた。頂上山荘で1時間ほど待つもやまないで濡れたものを乾かすためにテントを張って空焚きをした。今回一番危険だったのはこの空焚きのときである。なんと三人とも火をつけたままうとうとしてしまった。結果何も起こらなくて良かったが、もしかしたら一酸化炭素中毒の恐れもあったし、火傷などの危険性もあっただろう。火を扱っているときは緊張感を忘れないようにしなくては。その後天気が少し良くなり、あらためて出発するも宝剣岳山頂でまたも降り出す。結局またも風雨にさらされながら稜線を歩く。

前日より少しはましだが当然ながら会1二人の顔は暗い。何とか檜尾避難小屋につくが、小屋の中はすでに満員でテントも3張ほどあった。いけないとわかっていながらもテントを張りここで就寝。この日の夜の天気が一番悪く、テントのポールが折れるのではないかと心配だった。3日目は3時に起きるが、天気が悪いためにもう1時間寝ることにする。ただ寝坊してしまい5:20に起きた。会1二人は一度4時に起きたらしいのだがまだ天気が悪くまだ出発しないと私が判断したと思ったようだ。寝坊した私が悪いがそこは起こしてくれ。檜尾尾根からエスケープすることも考えていたが、撤収などをしていると天気が段々と良くなってきたので空木岳までいくことに。主稜線上はまだ風が強かったものの雨はない。景色もよくないので黙々と歩いていくと木曾殿山荘への下りがはじまるあたりで、3日目にして初の晴れ間が見えた。テンションがあがる三人。木曾殿山荘からはわくわくで一気に空木山頂へ。縦走を続けるのは厳しそうなので、そこからは池山尾根で下山。空木岳避難小屋は噂ほど怖い感じはしなかった。ただ避難小屋の手前に少し雪渓がのこっていてびっくりした。傾斜はなくピッケルはいらないがこの時期あの場所に雪渓があることは予想外だったので注意したい。ただこのルートを通るだけならば、稜線のルートを使用したほうが気持ちよさそうであったし良いだろう。3日目の朝まで絶望的だったメンバーの表情も下りきってみれば全員笑顔になっていた。(結果エスケープなのだけれど・・・) 今回の山行はとに

かくリーダーとして反省すべき点が多くあったものであった。悪天候での進退の判断、火に対する意識の不足、一個人としての取組み方などである。本来教える立場なのに会2がこれではいけない。自分の立場を考え、気を引き締めていきたい。会1の二人の歩きは比較的安定していたようで、体力もあるが、下山まで油断しないことと、たとえ悪天でも元気を出して隊を盛り上げようとするのができたら、もっと強くなれるかもしれない。

中央アルプス南部縦走

日程：2015年7月25-26日

山域：中央アルプス 烏帽子岳～南駒ヶ岳

メンバー：○片野亜紀、会原初実、前田
行動記録：

7月25日 ◎ 7月26日
○

4:50 烏帽子岳登山口発
5:40 小八郎岳
8:40 烏帽子岳
10:40 念丈岳
12:40 奥念丈岳
16:30 南越百山付近 5:00 テン
場発
5:50 越百山
7:00 仙厓嶺
8:20 南駒ヶ岳
13:30 南駒ヶ岳登山口
14:30 伊奈川ダム駐車場

今回の目的はやぶ漕ぎ入門と、快適稜線歩き！ということで、当初の目的を達成思う存分達成することができた。笹藪は念丈岳～越百山間ででてくる。随所随

所で登山道らしきものが存在するが、少し歩くとすぐ見失う。その繰り返いで笹とシャクナゲ、ハイマツなどと6時間ほど格闘すると南越百山にでる。不快なやぶ漕ぎに1年生たちはひいひい言いながらも頑張って着いてきてくれた。やぶ漕ぎ入門としては非常にいいルートだ。不快な状況でいかに笑顔を絶やさないかが今回のポイントだろう。2日目は特に問題なく歩く。仙厓嶺の下りがやや悪いが、FIXロープを離さず慎重に歩けば特に問題はない。南駒ヶ岳からの北沢尾根の樹林帯に入るまでもやや悪い。大きめの岩を渡りながら歩くので、高度感があり、慣れていないと少しこわいだろう。クライムダウンを交えさせながら慎重に下った。

仙丈・甲斐駒

日程 7/11～7/12

メンバー 長谷川士門(会2) 松橋
華世(会2) 小笠原一樹(会1)
前田達樹(会1)

コースタイム 1日目

北沢長衛小屋着 9:00～小屋発 9:25～小仙
丈ヶ岳 11:10～

仙丈ヶ岳山頂着 12:10～山頂発 12:50～北
沢長衛小屋着 15:05

2日目

起床 3:00～小屋発 4:20～仙水峠 5:15～駒
津峰 6:40～摩利支天分岐 7:40～摩利支天
8:00～摩利支天分岐帰着 8:35～甲斐駒ヶ
岳山頂着 9:00～

山頂発 9:55～七丈小屋 11:40～竹宇駒ヶ
岳神社下山 16:15

長谷川の家で前泊ののち農学部の友人の
車で仙流荘へ。朝早くからディズニール

ンド真っ青の人混み。このバスは夏の混雑時期は始発の時間に関わらず、人が集まってくると出発する。切符を買って並んでいると食料を家に忘れてきたことに気付いた。一度相談し、タクシーで土門のみ家に帰ることに決定。その間残った三人は北沢長衛小屋に先に向かい、テントをたてておくことに。北沢峠は電波が通じないので、もしその日の最終バスまでに土門が来なかった場合は何か事故があったとみなし、三人は仙流荘まで戻ってくる手はずにしておいた。結果、9時に土門は北沢峠合流、まだ時間は大丈夫だったので仙丈ヶ岳にアタックすることに。朝早くから車をだしてくれた友人よ、すまない。仙丈ヶ岳の登りは特に危険な箇所もなく急登もないのでのんびり楽しくいった。山頂でも1時間ほどまったりし、下山。山頂は人が多く大混雑だったが、天気もよかったしたまにはこんな登山も悪くない。特筆することもない何でもないルートだが、中腹でみえる甲斐駒の堂々たる山容に翌日への期待もふくらんだ。生活面に関して、会1の二人はまだ慣れてなく注意することもあったが、こんなものだろう。朝も早くはないがなかなかスムーズにはいった。2日目の甲斐駒ヶ岳では仙水峠から駒津峯の登りで小笠原の腰がどれだけ保てるかを試すために25~30kgの荷物を持たせて登らせた。腰が痛くなる2歩手前くらいで言うようにいったら駒津峯のまであと10分というところでアウト。彼曰くこまめな休憩があればまだ楽しい。駒津峯から甲斐駒までは団体が何パーティかいたが六方石の分岐で抜かせてもらい、そこからは少

し人も少なくなる。魔利支天はなんかいろいろ仏教系のものがあり良い雰囲気。気に入った。しかし、この週末は二日とも素晴らしい晴天でよかった。甲斐駒山頂でも時間を忘れてのんびりし、目の前に広がるパノラマを十分に堪能した。しかしここからが大変。下山路の黒戸尾根は信仰が感じられる厳かでよいルートだが、鎖場の多さと単純な距離の長さで心も体もぼろぼろに。特に前田は悪いところの足置きやクライムダウンが苦手なようで苦戦。小笠原も下り方が良くないのか終盤にはひざが疲れてガクガクになっていた。また、五合目小屋の跡地のところで巻き道みたいなものにはいってしまい、引き返すということもあった。自分のルーファミスが原因だが、長い下りで焦りもあったかもしれない。よれよれな小笠原を励ましつつ、下山。結果的にみんな無事でよかった。今回の山行はのんびりまったりな仙丈ヶ岳や少々悪い岩場を歩く甲斐駒ヶ岳、そして体力的、精神的につらい黒戸尾根を歩ける良い山行だった。会1の二人も特に体力や歩き方、足置きの面で課題が挙がった。自分もリーダーとして、食料を忘れたりするなどの初歩的なミスがあったり、至らない面が多々あった。楽しく、良い経験ができた山行であったがそれで終わらないよう精進したい。我々を苦しめた黒戸尾根だったが、下山後に売店のおばちゃんが桃をくれたり、七丈小屋の御主人がタクシー代をくれたりと、最後にほっこりとした良い思い出が出来てしまったのでまた行かないわけにはいかないだろう。次こそ情けなく嘆いたりせず、厳かな気持ちで通りたいも

のだ。

悪沢岳～赤石岳(丸山)

日程：2015/7/19～20

メンバー：会 2) L 大槻 山下 会 1) 稲垣 小笠原 藪内

行程：松本=畑薙ダム=樫島⇄千枚小屋～丸山

記録：

計画では千枚～悪沢～赤石～大倉尾根の樫島起点の悪沢～赤石周回山行だったが、台風の影響で畑薙ダムまでの林道が崩壊し通行止めとなったため、土曜日を静岡市街でつぶし、残る 2 日で悪沢岳をピストンすることにした。土曜の夜は畑薙湖下流の長島ダム近くのキャンプ場に泊まった。

7/19

8:40 樫島着 9:00 出発 12:00 清水平 14:15 千枚小屋

樫島からかなり高い金を払ってバスに乗り樫島へ。千枚小屋への尾根は傾斜もなく 1 年生もそこまで疲れていないようだった。千枚小屋までずっと樹林帯である。

7/20

2:00 起床 3:05 出発 3:50 千枚岳 4:55 丸山 5:30 千枚岳 6:30 千枚小屋 10:35 樫島 14:00 頃バスに拾われ畑薙ダムへ

帰りの林道あるきピッチを想定して早起したが、丸山での猛烈な風(冬並み)により悪沢アタックを中止して引き返した。千枚岳から先にやや悪いコルがあるが問題なく通過した。樫島からは林道あるき 4P の予定だったが、中ノ宿吊橋の先で井川観光協会のバスに拾ってもらえたため

やや短縮できた。

今回の山行は日程の短縮を余儀なくされた上に悪沢すら行けず不完全燃焼であった。悪沢～赤石はアップダウンや岩場の多い歩き応えのあるルートだが、静岡側から行くには林道閉鎖など連休が無駄になるリスクも高いので、やはり縦走で通過する方が得策かもしれない。

◎8月

【サマテン】明神東稜-明神主稜

2015/08/11

メンバー：蒲澤 翔 (会 3)

小平 貴則 (OB)

コースタイム

8/11

7:00 小梨平

8:30 宮川のコル

9:20 ひょうたん池

10:30 ラクダのコル

12:45 明神主峰

14:00 明神主稜 2 峰

15:00 南西尾根分岐

16:30 岳沢⑦

17:00 小梨平

概要・反省

ひょうたん池までの道は、思っていたより明瞭で、それほど藪こぎせずに済んだのは助かった。ラクダのコルまでの道はザイルを出すことはなかったが、危険なところもあるので下級生を連れていく場合は注意が必要だと感じた。ラクダのコルからはダブルロープで登ったが、ザイル 1 本でも十分だという気がした。主峰へでる最後の登りだけが少し難しくこ

こは慎重にリードした。山頂に早く着くことができたので、明神主稜を下降することにした。2峰の登りは左から簡単にいけそうだったが、正面の凹角を行った。岩が脆く、体重をかけると崩れそうで恐かった。3峰は巻いて岳沢へ下る南西尾根を下降した。誰が整備したのか長いロープが張ってあり慎重に通過した。あわせて10時間で2ルートを行くことができ、疲れはしたが満足のいく山行だった。

【サマテン】前穂北尾根4峰正面壁・松高ルート

8/15-16

メンバー：蒲澤 翔（会3）
塩谷 晃司（会3）
花谷 泰広（OB）

コースタイム

8/15

9:00 小梨平

13:30 奥又池

8/16

3:00 起床

4:00 出発

5:30 取り付き

8:00 松高ハング

9:45 top out

11:30 前穂山頂

12:30 奥又池

16:00 小梨平

概要・反省

ヒマラヤ国内合宿の一環で前穂北尾根4峰正面壁・松高ルートに行った。1日目はのんびりサマテンで飯を食べてから出発し奥又池にテントを張った。蚊が多くて不快だったが、焚き火をするとましに

なった。自分と塩谷で明日の偵察をしてはやめに寝た。

2日目偵察と花谷さんの力により早く取り付くことができた。始めの2pを塩谷が次を自分がいき最後2pを塩谷がリードすることにした。最初の2pは難しくはないものの、ルートを辿るのが大変そうだった。逆に自分はルートは明確だが、技術的に難しかった。特に松高ハングはあと一手を出す決心がつかず、結局A1で登ってしまった。かなり心残りなので近いうちにフリーで登りたい。松高ハングを超えてからも悪く、そこは塩谷がリードした。尾根上に出たからは北尾根を前穂山頂へ向けて進み、A沢を下降した。A沢はかなり崩落していてここが一番慎重に通過した。

この山行では自分のクライミング能力のなさを痛感した。来年に向けてクライミングの技術を磨いていきたいと思う

【サマテン】前穂北尾根4峰正面壁・松高ルート

日程 8/14～15

行程 小梨平～新村橋～奥又白池～北尾根4峰正面壁（松高ルート）～5、6のコール～奥又白池～小梨平

メンバー L 加藤穂高、内田祥平（会3）

行動記録

8/14（金）

07:00 小梨平

07:50 明神

08:30 徳沢

09:20 中畠新道入口

11:00 奥又白池

朝から小雨が降っていた。明神、徳沢と梓

川を遡って新村橋の先から又白谷に入る。傾斜が強まってきたら谷が開けてパノラマ新道の分岐となる。ここから急峻な中畠新道に入る。踏み跡はしっかりしており急登も小一時間で傾斜が緩んだ。松高ルンゼは濡れていてだいぶ悪そうだった。5、6の科尔への踏み跡を分岐するとすぐに奥又白池が現れる。中又白谷源頭の水は出ていて水には困らなさそう。明日朝一に登る奥又尾根の踏み跡もはっきりしている。午後になると雨も上がり4峰正面壁が顔を出した。トポと岩峰を見比べて明日登る松高ルートを見定める。内田とふたり肩が痛くなるまで水切りを楽しんで1日を終えた。

8/15 (土)

04:40 奥又白池

05:20 C沢出合

05:50 甲南バンドT1

10:20 松高テラス

11:50 終了点

12:20 北尾根稜線

13:30 5、6の科尔

15:10 奥又白池

18:40 小梨平

池を出発しまず奥又尾根を詰める。30分程で奥又白谷トラバースへの踏み変え点。悪いガレ、ザレのルンゼを幾つかトラバースして雪溪へ。C沢の入口には目印となるチョクストーンがある。C沢に入って程なく右のルンゼに入り小尾根を乗っ越すと明瞭なトレースがT1へと続いている。T1は確信が持てたので少し下ったテラスに確保支点を見つけた。1P目は加藤がリードして以降ツルベで登っていく。テラス上のところから取り付き、草

付凹角を壁に突き当たるまで。ブッシュでビレイした。2P目、壁の基部をトラバースしてカンテ状に出て草付フェースを登りブッシュでビレイ。3P目、高度感のある凹角を登って、松高ハング手前の垂壁をトラバース。松高ハング手前で切る。4P目、松高ハングを越える。ここは残置支点にアブミを掛けてA0。むしろその上の垂壁の方が厳しいと感じた。松高テラスでビレイ。5P目、松高テラスから傾斜の強いフェースを登ってカンテを右に逃げる。6P目、最終ピッチはスッキリとしたフェース。左上するバンドに沿って登る。残置の懸垂下降点でピッチを切ってザイルを外す。稜上を少し登ってから5、6の科尔側にトラバースして北尾根上に乗った。5、6の科尔まではクライムダウンを交えつつもロープは出さずに下れる。5、6の科尔から奥又白方面に降りる出だしが崩壊した急斜面をトラバースすることになる。足下は一步踏み出すごとに崩れるような道だった。そこから先は踏み跡明瞭な小尾根を雪溪まで下るのが最善だったのだが私達は小尾根から右にガレ沢に下りてしまい歩きずらかった。池でテントを撤収した後、パノラマ新道分岐までの下りも両側が切れ落ち気が抜けない。薄暗くなるころ小梨平まで下り長い1日を終えた。

【サマテン】奥穂南稜、ジャン飛驒、明神主稜

日程 8/8～11

行程 小梨平～岳沢～奥穂高岳南稜～穂高岳山荘～ジャンダルム飛驒尾根～穂高岳山荘～奥穂高岳～前穂高岳～明神岳主

稜～小梨平

メンバー L加藤穂高、内田祥平、蒲澤翔、塩谷晃司（会 3）

行動記録

8/8（土）

09:10 小梨平

12:50 岳沢 T.S

小梨平のサマテンで OB の方々に挨拶をしてから出発。岳沢に到着した後は南稜の取り付き偵察に加えコブ尾根の取り付きも見に行った。南稜の取り付きは、岳沢からゴークを登り滝沢の雪渓を上部末端近くまで詰めて南稜のルンゼに取り付けることを確認した。

8/9（日）

04:30 岳沢発

05:10 南稜取り付き地点

08:50 トリコニー1 峰

9:43 トリコニー2 峰

11:50 南稜ノ頭

12:00 奥穂高岳

13:40 穂高岳山荘

朝カチカチに成った滝沢の雪渓へアイゼンを着けて出発。南稜のルンゼに取り付くとアイゼンを外し硬い安定した 2 級程度の岩場をグイグイと高度を稼ぐ。途中でルンゼが二俣に成っているが今回は左のルンゼを登った。前方にトリコニーの側壁が見え始めるとハイマツの藪漕ぎとなる。進むと二段の草付きの岩壁に突き当たり 2 ピッチロープを出す。トリコニーの二峰からは高度感のあるリッジを慎重に通過する。右は滝沢側に深く切れ落ちていて緊張する。二峰から三峰へも細くて慎重に通過する。此処からは重太郎新道を登る登山者やジャンダルムが見え

る。トリコニーの三峰は左に残置ロープを掴んで 3m 程下る。懸垂する事も無く側壁のもとに降り立った。此処を通過すれば後は比較的緩斜面を南稜ノ頭に向かって登って行くだけ。無事に南稜ノ頭を過ぎ、約 5 時間弱で山頂に到着。大勢の登山者がいた。明日登るジャンダルムと飛騨尾根を眺めてから穂高岳山荘に下る。

8/10（月）

04:00 穂高岳山荘

05:00 奥穂高岳

05:30 ジャンとコブ尾根頭とのコル

06:50 飛騨尾根取り付き

09:30 ジャンダルム山頂

12:00 穂高岳山荘

穂高岳山荘をアタック装備で出発し奥穂を越えてジャンダルム方面へ向かう。ジャンダルムは巻いてコブ尾根の頭とのコルからβ沢（αルンゼ）を下降する。これがガレ沢で悪い。沢の側壁を手掛かりに二人ずつ二手に分かれて下る。滝を 2 つほどクライムダウンし細いバンドをトラバース。もろい部分もあるので要注意。草付とハイマツ帯を越えると飛騨尾根に着いた。適当なところで登攀準備。ルートはⅢ級程度だが人工の支点は少なく所々に錆びた残置のピトンがあるだけだった。1、2 ピッチ目まではリッジ上を登っていく。3 ピッチ目はこのルートの核心と思われるフェース。3 ピッチ目の終了点辺りで尾根はギャップとなっている。そのため 4 ピッチ目はクライムダウンから始まり登り返す。この 4 ピッチ目が実質的に登攀は終了のようだった。5 ピッチ目、確保したままジャンダルム直下にきてロープを外し頂上に立った。ジャンダルム山頂から

は奥穂側に 15m ほど懸垂下降して穂高岳山荘まで戻った。この日蒲澤はひとり穂高岳山荘から小梨平まで下りた。

8/11 (火)

04:10 穂高岳山荘

05:00 奥穂高岳

06:20 前穂高岳直下道標

07:30 明神岳主峰

08:50 2 峰

10:20 5 峰

12:40 岳沢 No.7 道標

14:20 小梨平

この日は小梨平まで下る予定なので装備は全て背負って穂高岳山荘を出発する。奥穂を越えて一旦紀美子平まで下る。紀美子平から前穂直下の道標まで登る。道標からは踏み跡が三本槍の方へ伸びていてまるで一般道の様だ。A 沢下降点までは稜線よりすこし岳沢側を下る。最初は一般道と大差ないが下るにつれ浮石の多いガレ場歩きとなる。奥明神沢のコルを過ぎるとすぐフィックスロープの下がった岩峰の登りとなる。岩峰は正面から見ると急だし高さもありそうなのでロープが出そうだが取り付きまで行ってみるとホールドも多い。ただ岩が脆く浮石も多いので神経を使う。岩峰を過ぎさらに 1 つ小ピークを越えると目の前に明神岳主峰が現れる。主峰は手前の岩峰との鞍部から頂上直下にかけて痩せた稜線上に岩が綺麗に敷き詰められ一般登山道のように。頂上の展望は良い。岳沢側へ一段下り主峰基部を巻いて稜線に戻る。前方には核心の 2 峰が現れる。このピークは岩峰の宮川側 (左) の凹角を登る。内田のリードで 2 ピッチを登る。1 ピッチ目は凹角を

越え階段に近い岩場を登ってバンドに上がり左にトラバースする。上段の凹角手前が終了点。2 ピッチ目は階段状の凹角、登りきった 2 峰の肩に懸垂支点があり終了点とできるが私達はそれを過ぎて 2 峰頂上まで上がってしまった。3 峰は 2 峰から下る場合はあまり高低差がなく目立たないピーク。頂上直下まではすぐ行けるが、踏跡は岳沢から巻くようについておりハイマツ混じりの岩場歩き。4 峰も 3 峰と同じようなピーク。この 3 峰 4 峰は下り方向では目立たないが振り返ると大岩峰となっていた。5 峰周辺は台地上になっており幕営地に打って付けた。5 峰台地より西南稜を少し下る。最初は尾根がはっきりしないが南に顕著なピークがある尾根を見送ってハイマツの中の明瞭な踏跡を下る。この下りの前半には長いやせ尾根がありトラロープが張ってあるが両側が切れ落ちていて気が抜けない。視界のない鬱蒼とした灌木帯を過ぎると樹林帯の下りとなり後は尾根通しに急勾配を下っていく。5 峰より 2 時間ほどで岳沢の No.7 の道標の前に出て小梨平に下山した。

明星山 P6 南壁 フリースピリッツ

2015.8.3

メンバー : L 荒川 4 小平 OB

5:00 駐車場発

6:30 とりつき

12:00 トップアウト

14:00 駐車場

ワンデイアルパインということで明星を
チョイス。近いと思いきや松本から3時
間近くかかった。全然近くない。内容は非
常に充実していたものだった。というか
充実しすぎていたかもしれない。疲れた。
奇数がトラバース、偶数が登りのパート
であることが多かったが、私が偶数ピッ
チをリードしたらもっと時間がかかって
いただろう。小平さんという強力なパー
トナーのおかげで壁にのまれることなく
挑めたように思う。自分もこのような先
輩でありたい。適期は秋とのことだがこ
の時期でも登れなくはなかった。確かに
暑かったけど。山岳会ならばぜひとも登
ってほしいルートである。フリースピリ
ッツというルート名だが強い「フリー」の
精神を感じた。残置・ボルトはほとんどな
い。アンカーでさえボルトがないのが普
通だ。そんなシンプルなクライミングは
高い集中力を必要とし、精神的につかれ
たが、充実感もひとしおだった。

とりつきへは売店の右からうっすらと続
いている踏み跡を下る。一応石にマーク
があったりする。15分くらいで河原へ
出る。とりつきよりずいぶん上流側に出
てしまったので河原を下流側へ歩く。情
報どうりチロリアンブリッジがあったが
飛び石で川を渡れた。

ルートはトポ通り進めた。60mザイル
だと気が楽だ。3P目の下りトラバース
を見逃さないように。核心はウメボシ岩
の乗越と最後のピッチの出だしだ。5.9だ
が高度感も相まってきつく感じる。傾斜
が緩くなったところで終了。明瞭な頭
には出なかった。そこから(上を見て)左に

20分ほどトラバースする。何があつて
もトラバースする。濃い踏み跡を確認し
て下り始める。下りは右寄りにルートを
採る印象だ。安易に下ってはならない。行
き詰る。下降路が分かりにくいので時間
に余裕を持つこと。

夏縦走 北アルプス北上

報告者：山下 耕平(会2)

山行期間：2015年8月6日(木)~13(木)

山行メンバー：[会2] 山下 耕平(CL)

[会1] 小笠原 一樹 村上

友理

行程

《0日目》

1840 新穂高温泉発

1940 ワサビ平小屋(T.S.)

新穂高温泉よりワサビ平までの、林道1
ピッチの道程。林道だと甘く見ていたが、
熊の目撃情報もあり、もうすこし早く到
着するようにと小屋の方からお叱りを受
けてしまった。

《1日目》

0330 起床

0440 ワサビ平小屋発

0530 1550m 付近

0605 秩父沢

0635 1900m 付近(小笠原団装をバラす)

0730 シシドウ原

0830 鏡平

0945 稜線分岐

1030 クロユリベンチ

1115 双六小屋(T.S.)